

# 慶應言語学コロキウム

## 言語学的アプローチによる手話研究の現在 (オンライン開催: Zoom 使用)

[日時] 2021年3月20日(土) 13:30~18:30 ※受講料無料

[対象] (手話)言語学を専門とする学部生・院生・研究者 \* 全ての発表+ディスカッションには手話通訳が付きまます。

13:30 開会

13:35~15:05 講師1(発表+ディスカッション) 矢野羽衣子(明晴学園 非常勤職員)

### 「手話言語の生成過程に関する一事例研究 —矢野(2020)より」

本発表では、不就学ろう者 A さんの手話表現を言語学的に分析し、手話言語の生成過程における位置づけを試みた矢野(2020)より、指さしに関する報告を紹介する。具体的には A さんの指さしを含む表現について、地域共有手話言語として報告されている宮窪手話(Yano et al. 2018)及び日本手話と比較検討し、家庭手話と地域共有手話言語の中間に位置づけられることを示す。

(10分休憩)

15:15~16:45 講師2(発表+ディスカッション) 上田由紀子(山口大学)・内堀朝子(東京大学)

### 「日本手話の削除現象から見えてくること:動詞句削除現象から」

削除現象に関する研究成果は、音声言語の言語理論に様々な示唆を与えてきた。上田・内堀(2019, 2020)では、日本手話のいわゆる空目的語文には、残留する動詞のタイプにより、項削除(語彙動詞残留の場合)と動詞句削除(代動詞残留の場合)の異なる削除が関与していることを主張した。本発表では、日本手話における動詞句修飾表現と動詞の共起環境に焦点をあてて観察した結果を報告する。

(10分休憩)

16:55~18:25 講師3(発表+ディスカッション) 川崎典子(東京女子大学)

### 「視線が作る時空間に産み出される事象 —ロールシフトのシンタククスと意味」

手話言語の発話では、冒頭~終了時の発話者の視線が、現実の発話現象を時空間内に確定する。発話時の発話者以外の人物の発話・認識・行動・体験をその人物の視点から表現するロールシフト Role Shift では、視線の方向が変わり、現実の発話事象とは別の事象 event の時空間が新たな視線により設定される。日本手話の調査に基づき、二種類のロールシフトはいずれも統語構造内の *iP* を作用域とし、両者の違いは表出される事象が発話・思考か行動かに帰因すると論じる。

ロールシフトについてご存じでない方は、予め次のビデオを視聴していただくと幸いです。

「こしがや手話チャンネル」 11, 12.

<https://www.youtube.com/watch?v=827apl-vs0Y>

<https://www.youtube.com/watch?v=HhS3TDoKTNs>

18:30 閉会

[参加申込] [genbu@icl.keio.ac.jp](mailto:genbu@icl.keio.ac.jp) 申込締切:3月18日(木)

- ・氏名、所属、職位(学部・専攻・学年)を明記の上、メールでお申込ください。
- ・申込者へは、事務局より別途オンライン開催情報を返信いたします。

共催: 科研費基盤(C)(課題番号:18K00576)「日本手話における空項に関する統語研究」

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話: 03-5427-1595 (事務局直通) メール: [genbu@icl.keio.ac.jp](mailto:genbu@icl.keio.ac.jp)  
<http://www.icl.keio.ac.jp>